

ある橋侍り、委くは縁起にみえ侍る、又顯露に記し侍るべき事にあらず、法の水みなかみふかく尋ずばかけてもしらじ山すげの橋、瀧の尾と申侍るは、無雙の靈神にてまし／＼ける、飛瀧の姿、目を驚かし侍りき、

世々をへて結ぶ契の末なれや此瀧の尾の瀧のしら糸、此山の上三十里に、中禪寺とて權現ましましける、登山して通夜し侍り、今宵はことに十三夜にて、月もいづくより勝れ侍りき、渺漫たる湖水侍り、歌の濱といへる所に、紅葉色を争ひて月に映じ侍れば、舟に乗りて、

敷島の歌の濱邊に舟よせて紅葉をかざし月をみる哉、翌日中禪寺を立出ける道に、數散しける紅葉の、朝霜のひまに見えければ、先達しける衆徒、長門の堅者といへる者に、いひきかせ侍りける、

山深き谷の朝霜ふみ分てわがそめ出す下もみぢかな、かくしつゝ、下山し侍りけるに、黒髮山の麓を過侍るとして、われ人いひすてどもし侍けるに、

ふりにける身をこそよそに厭ふとも、黒髮山も雪をまつ、覽同じ山の麓にて、迎ひとて馬どもの有けるを見て、

日數へてのる駒の毛もかはる也、黒かみ山の岩のかげ道

男體山

〔木曾路名所圖會六〕男體山 又黒髮山ともいふ、此山に登るに、道巍々として積雪多く、寒風肌に徹

る、三社權現、山頂に立せ給ふ、四十八日の行にて、毎年七月七日此峯に登る、此時七月朔日より、中禪寺別所に籠り、一七日があひだ、種々の行ありて登山し、三社を拜し奉る、信心厚き人、奇異の靈驗を得るなり、

〔下野掌覽〕黒髮山

都賀郡日光山ノ奥ニアリ、當國第一ノ高山ナリ、俗ニ男體山ト呼ビ來レリ、鉢石ヨリ中禪寺マデ